

技術・技能の現状評価と 伝承計画の作成

現場
力を強める
技術・技能の
伝承



技術・技能の現状評価と 伝承計画の作成

第Ⅰ部 技術・技能伝承へのイントロダクション	5
1. 技術・技能伝承はなぜ難しいか	6
2. 技術・技能継承はなぜ必要か	7
3. 技術・技能継承の成功企業には共通の特徴がある	8
4. 技術・技能継承のバックグラウンド	10
5. 技術・技能継承, どうすすめればよいか	12
6. 技術・技能継承のPDCを回す	14
7. 職業能力とは何か	16
8. 技術とは何か, 技能とは何か	19
9. 技術・技能伝承で解決すべき5つの課題	23
10. 技術・技能の伝承は誰がするか	25
11. 技術・技能伝承の考え方	27
●研究課題	29
第Ⅱ部 技術・技能伝承活動のキックオフから計画まで	31
1. 経営戦略を明確にする	32
2. 技術・技能継承のための組織づくりと運営	34
3. 技術・技能継承委員会の活動	36
4. 技術・技能継承のその他のしくみづくり	39
5. 伝承すべき分野の絞り込み	40
6. 技術・技能マップづくり	42
7. CUDBAS作業のすすめ方といくつかの注意点	51
8. 技術・技能チェックリストの作成の仕方	58
9. 技術・技能伝承計画を立てる	61
10. 技術・技能マップの活用	65
11. CUDBAS手法の特徴	67
12. 能力開発の4つの方法	71
13. SJT訓練のすすめ方	73
●研究課題	75

技術・技能の現状評価と伝承計画の作成

●執筆指導講師

森 和夫(もり かずお)

現職株式会社技術・技能教育研究所代表取締役。工学博士。主な経歴は東京農工大学教授(～2006年3月)、徳島大学教授(～2004年3月)、職業能力開発総合大学校教授、助教授、講師(～2000年3月)。

職業能力開発、産業教育学・労働科学を専門とし、産業界を中心に活動。ライフワークは「技の上達」。ものづくり労働では、手工芸品製造・機械製造・電気電子機器製造・素材製造を対象とした。サービス労働では看護・介護・調理・美容・ホテル・レストラン・情報サービス・販売・メンテナンスを対象とした。現在は技術・技能伝承方法のセミナー、講演の他、企業との共同研究、出版活動を行っている。

研究開発したシステムは「技術・技能伝承システム」「看護OJTリーダー研修」「SAT・技能分析手法」「美容接客指導法」「PROTS・指導技術訓練システム」「CUDBAS・職務分析手法」「クリニカルラダー開発手法」がある。主な著書・論文には「技術・技能伝承ハンドブック」(JIPMソリューション, 2005)、「技の学び方・教え方」(中央職業能力開発協会, 2002)、「現場でできる技術・技能伝承マニュアル」(日本プラントメンテナンス協会, 2002)、「技術・技能伝承マニュアルの作り方」(日本プラントメンテナンス協会, 2001)、「プラントメンテナンス技能の評価チェックリストの開発研究」(日本プラントメンテナンス協会, 2000)、「職人に学ぶ一技の伝承と文化」(高等教育情報化推進協議会, 2000)、「職場でできる技術・技能の伝承と創造」(中小企業労働福祉協会, 1998)、「ハイテク時代の技能労働」(中央職業能力開発協会, 1995)、「技能習熟における能力の構造化過程」(学位論文, 1995)、「PROTSと人作り—能力開発担当者のための指導技術」(海外職業訓練協会, 1992)がある。

学会活動は日本産業教育学会会員、人類労働学会理事、日本人間工学会評議員として活動。海外活動は2004年度・2003年度はグアテマラ共和国, 1998年度はボリビア, 1996年度はフィリピンにJICAより海外短期派遣専門家として派遣され技術教育の指導者養成を実施。

●編集協力 福士 やす代

●装丁 さいとう真砂

●イラスト 熊田 まり

現場力を強める技術・技能の伝承コース①

技術・技能の現状評価と伝承計画の作成

2006年7月1日 第1刷発行

2007年9月21日 第2刷発行

発行者—佐藤 方俊

発行所—社団法人 日本監督士協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-12-4

電話 03 (3263) 2944 FAX 03 (3237) 8460

<http://www.kantokushi.or.jp>

印刷製本—有限会社 光進印刷

© QUFAJ 2006

現場
力を強める技術・技能の伝承 1
